



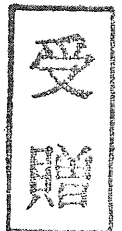
日本語と日本文学

第三号

-
- 日本語文化をになった人の、ある系列……………林 四郎…(1)
- 斎藤茂吉「おひろ」の連作……………小倉真理子…(10)
——「死にたまふ母」との関連から——
- 『多武峯少将物語』考……………下西善三郎…(19)
——高光の作中呼称と作者のめざしたもの——
- 情態修飾成分の整理……………矢澤 真人…(30)
——被修飾成分との呼応及び出現位置からの考察——
- 複合動詞の意味と構成……………田辺 和子…(40)
——「～ダス」・「～アゲル」を中心に——
- 国語教材論研究の課題と方法……………桑原 隆…(50)
-

昭和58年11月

筑波大学国語国文学会



投稿規定

- 一、投稿論文は三十枚程度。
 - 一、次号原稿〆切は昭和五十九年二月末日。
 - 一、原稿送り先
- 305 茨城県新治郡桜村天王台一―一―
一 筑波大学文芸・言語学系事務室内
一 筑波大学文芸・言語学系事務室内
『日本語と日本文学』編集委員会

編集後記

遅くなりましたが、第三号をお送りします。これまでどおり、できるだけ広い領域からということで御覧のような内容になりました。創刊後三年がたちましたが、編集はとも軌道に乗ったとは言えません。第一に経済的な問題があります。できるかぎり多くの方に購読をお勧めください。また、投稿論文が少ないのも残念です。今のところ年一回の刊行ですが、会費・投稿両面での積極的な御協力を得ることで、ますます充実・発展させていきたいと考えています。

昭和五十八年十一月二十日印刷
昭和五十八年十一月三十日発行
第三号

305 茨城県新治郡桜村

一 筑波大学文芸・言語学系内
編集・発行 筑波大学国語国文学会
代表者 林 四 郎

発行所 (有) 笠 間 書 院

101 東京都千代田区猿樂町二―二―五
一 電話〇三(一九五)一三三一(代)
振替口座 東京 一五六〇〇二